



MEL ニュース

(2018年5月 第2号)

(一社) マリン・エコラベル・ジャパン協議会
事務局

本来であれば5月上旬に本記事を皆様にお送りする予定でしたが、事務の手違いによりご連絡する時期が遅くなりましたこと、お詫び申し上げます。

今年のゴールデンウィークは、好天と荒天にくっきり分かれ、地球の気候変動の及ぼす影響の大きさを強く感じさせました。

ゴールデンウィークと言う言葉の語源は、1951年（昭和26年）に映画界の活性化のために使い始められた宣伝用語だといわれます。その後の祝日法改正により祝日が増え、現在の大型連休がすっかり定着したのはご高承の通りです。

徐々に休み方は分散される傾向にあるものの、どこも渋滞と混雑、レジャーにとっても事業遂行にとっても計画や稼働をマネージする上で実に悩ましいウィークでした。

皆様は如何お過ごしだったでしょうか？ さあ、これから平成最後の一年が始まります。

1. MEL のオフィスの体制について

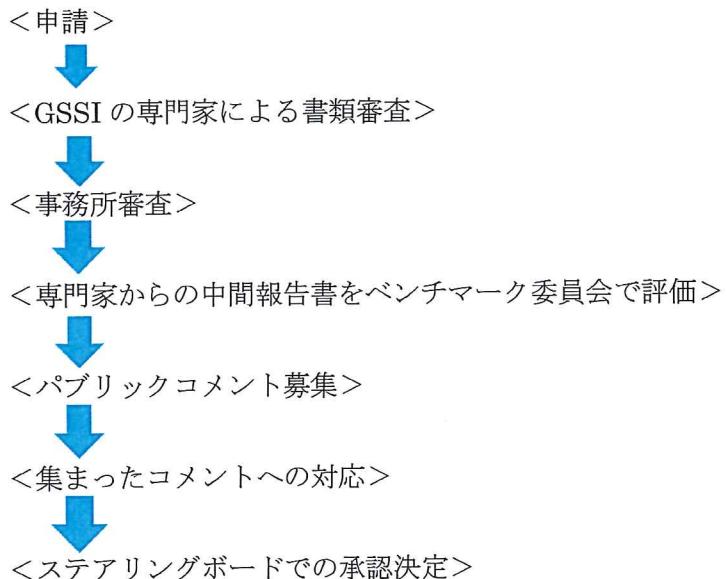
4月2日（月）からMELのオフィスに事務局長の西村雅志と事務局員の江尻敦子が常駐する体制となりました。今まで、留守電対応でご迷惑をおかけしておりましたが、ようやく最低限の体制を整えることが出来ました。まだ不慣れな点が多い実情ですが、一日も早くご満足をいただける様一同頑張ります。

GSSIからは、昨年来プレアセメント等を通してスキームオーナーの業務を果たすために事務局の体制強化を求められてきました。この要求に対応するため、今後更に技術的な専門家をお招き出来る様銳意努力して参ります。もし皆様のご関係で、MELの仕事にご興味を持っておられる方がいらっしゃいましたらご紹介賜れば誠に幸いです。

2. GSSIへの承認申請と承認のプロセスについて

現在MELでは、5月中にGSSIへの申請にこぎつけられる様詳細の詰めを行っております。スキームの管理と認証プロセスのガバナンス、漁業、養殖、流通・加工の夫々の認証規格に関し、GSSIの要求に沿った膨大な申請書類（英文でA-3版エクセル30ページ以上）を作成し、英語を母国語とする専門のコンサルタントに依頼してチェックを受けた上、提出します。

申請書提出後の承認までのプロセスは、



*GSSI ステアリングボードは 15 名のメンバーからなり、NGO、生産者、小売、フードサービス等多様なステークホルダーにおける経営者、科学者等専門性の高い人々によって構成されている。

日本からは（株）シーフードレガシーの花岡和佳男氏が環境 NGO のメンバーの 1 人として加わっている。

申請から承認決定までは通常 8 か月から長い場合は 2 年かかるが、MEL の場合はプレアセスメントを受けており 1 年を想定している。最も精力的対応が求められるのは、6 月から始まると思われる GSSI が指名する独立した専門家とのやり取りの段階と考えています。

3. GSSI のステアリングボードメンバーである METRO グループの Andrea Weber 氏とのミーティング

4 月 17 日に農水省で来日中の METRO 社の Andrea Weber 氏との意見交換会が開催され、MEL より長岡専務と西村事務局長が出席しました。

Weber 氏から日本の水産物の購入を増やしたいという METRO 社の方針と GSSI のステアリングボードメンバーとして MEL の承認申請は望ましいこととして前向きに受け止めていることの発言がありました。GSSI の最高の意思決定機関であるステアリングボードで MEL の承認申請が共有されていると受け止められます。

4. 会員募集について

GSSIへの承認申請に先立ち、GSSIが求めるMEL協議会の財務基盤の自立と確立に対応するため、3月より会員募集を開始しました。

ご高承の通りMEL協議会の収入は一般財源としては、会員の皆様からの会費と認証者からのラベル使用料のみで、国庫からの補助金は特定の目的にしか使用できません。

先ず、MELの理事をお願いしている団体から始め、皆様にご了解をいただきました。次いで、水産に注力しておられる商社、大手水産会社は各社に、またこれから関係が深まる漁業、加工業、流通業、小売業、外食業、等の業界団体に会員として「日本発の世界で通用する水産エコラベル」確立へのご支援をお願いしています。多くの訪問先で説明の機会を頂戴し、CSRの観点からは会員として、実務的には必要な認証を取得していただくことへの理解が進んでいます。

5月1日現在の会員数は19社・団体です。

5. 研修会、講習会、セミナーの開催について

平成30年度の予算において、「日本発の水産エコラベル普及推進事業」に対する国庫補助が決定され、研修会、講習会開催への支援が決定しました。

現在、年間全国で15回の開催を計画しており、対象として既に旧MEL認証を取得しておられる事業者、これから認証を取得することを検討しておられる事業者、また、MELへの統合予定のAELの認証取得事業者等を考えています。

基本的なカリキュラムとしては、MEL協議会からの説明、日本水資からの認証取得についてのガイダンス及び既にMEL認証を取得している事業者の具体的な事例発表を考えています。

MEL協議会からは、GSSI承認取得後のMELの認証の説明とスキームオーナーとしてのMEL協議会の考え方および認証事業者が取るべき行動等につきご出席いただいた皆様に報告します。

その一つとして、研修会、講習会を通して

認証制度は、そもそもFAOの基準に則りスキームオーナーが認証規格を定め、それを関係者が守ることで成り立つ。MELの場合は、認証取得を申請した事業者の実態がMELの定める規格に合っているかを、中立かつ独立した第三者の認証機関である日本水資が審査を行い、認証された事業者が申請した事実に沿って活動することが認証の信頼性を担保することになる。

従って、認証取得そのものが目的ではなく、持続可能な事業の実践こそが事業者自らの利益と社会への貢献につながる。

の考え方を共有したいと考えています。

なお、研修会、講習会の内容に対し、皆様からご希望があれば事務局までご連絡いただければ幸いです。

6. ホームページ

遅れしておりました MEL ホームページの英語版が 5 月 23 日アップロードされました。英語版のホームページ開設は国際標準化を目指す MEL にとって必須の要件であり、ようやくここまでたどり着くことが出来ました。今後は、日本語版ともども内容の充実に力を入れ、透明性の高いより開かれた MEL 協議会実現を目指して参ります。

7. 漁業認証規格（Ver.2.0）、流通加工段階認証規格（Ver.2.0）の認証合格について

GSSI は、承認申請に当たり 1 件の実地審査実施を求めています。このことへの対応のため、日本水産が 2018 年 2 月 16～17 日に北海道シロサケの定置網漁業とその加工について、2018 年 2 月 1 日付で発効した認証規格に基づき実地審査を実施し、近日開催される判定委員会により認証の付与が決定される予定です。

この認証は、MEL 協議会にとって漁業、流通加工段階とも初めてのケースとなります。MEL 協議会はこの認証を承認申請書に盛り込み GSSI に提出することになります。

以上

お問い合わせ先：

(一社) マリン・エコラベル・ジャパン協議会
〒107-0052 東京都港区赤坂 1-9-13
三会堂ビル B1F
TEL : 03-5545-3315 FAX : 03-5545-3316
Email : info@meli.jp